

蒼山会挨拶

2016年4月2日（土）

尾池和夫

皆さん、ご家族のご入学、まことにおめでとうございます。大学の役割は、教育と研究と社会貢献です。その大学にあって、最も大切なのは学生です。私たち瓜生山学園の役員、京都造形芸術大学の教職員は、そのことをしっかりと認識して、学園生活を支援し、学習環境を整えて、新入生をお迎えいたしました。

都の置かれた京都には城壁がないというのが世界的に見て珍しいことです。それは、京阪神奈良の都市が活断層性の盆地や平野にあるということに由来しています。皆さんのご家族がこの京都に、瓜生山にある京都造形芸術大学に入学された機会に、初めて京都に訪れた方も、またずっと京都に住んでこられた方も、もう一度、この京都盆地の景色を見渡してみたいと思います。

活断層運動で大地がずれ、隆起した山から浸食されて土砂が流出し、扇状地と堆積層を形成して、そこに大量の水が蓄えられて都市が形成されました。地下水を元に茶の湯が生まれ、和菓子や清酒が造られました。大地震の繰り返しで破碎された山の麓は崩れやすいので、人々は孟宗竹を植えて補強してきました。そこに筍が育ち、京都盆地の名産となりました。

北山は昔海底で堆積した岩盤が隆起して、まだその水平面を保っています。それを北山の準平原といいます。京都盆地の地下断面図を作ると、北山で地表に出ている古い岩盤の上面は、京都盆地の北の端で地下に潜り、南へ行くほど階段状に岩盤の面が深くなっています。北山通で地下100メートル、丸太町で地下250メートルに岩盤があり、雛壇のようにだんだん深く、宇治川の南では地表から800メートルの深さに岩盤があります。

都の鬼門を守る位置に比叡山があり、比叡山から南へ東山三十六峰が連なっています。東山を隆起させているのは花折断層です。花折断層は南へ京都造形芸術大学のキャンパスの西側を通り、京都大学植物園内の坂、吉田山の西の麓などで位置を確かめることができます。

京都は1300年の歴史を持つ、しかも発展を続けている都市です。その京都に、京都造形芸術大学が存在することの大きな意味があります。一方、この盆地を形成した活断層は、ときに大地震を起こします。大学にとっては、学生さんたちが安心して学習できる環境を確保することが大切です。学生のために安全な学習環境を整備するということが第1の目標になります。

京都造形芸術大学の本部があるキャンパスは、花折断層の上盤に設置されており、その隆起運動による景観を十分に活用しています。この花折断層の活動履歴は、私自身が委員

長をつとめた京都市活断層調査委員会を中心として調査され、地震発生の履歴はよく調べられています。その調査結果によると、最新の活動は、今から 2800 年前から 1400 年前の間、そのもう一つ前の活動は、今から 7900 年前から 7000 年前の間です。次の地震が起こるとすれば、その規模はマグニチュード 7.2 です。これは 1995 年の神戸の大地震とほぼ同じ規模です。この花折断層の今後 30 年の地震発生確率は、最大 0.6% です。これは地震がしばらく起こらないと解釈される確率かもしれませんが、いずれにしても、学生さんたちが安心して学習できるよう、学舎の耐震化を進めることが重要です。

同時に、学生の防災意識を養うことが重要です。そのためには、正確な知識が必要です。適当な時期に、花折断層の現地見学会を実施したいと思っています。ご家族の皆さまには、大学の外での生活環境に気を配っていただきたく存じます。学外での生活環境を、安心して学生の皆さんが学習に励めるように、整えてあげていただきたく存じます。

これからの学園生活の中で、大いにそれを楽しんでいただきたいと思うと同時に、学生の皆さんが社会性を身につけながら、卒業して社会人として活躍できる条件を整えていくというのが、これからの本学の重要な目標でもあります。この点に関しては、とくに保護者の皆さまと情報を共有しながら議論して、本学として取り組んでいきたいと思っています。私もこの蒼山会の活動に参加して、皆さま方と一緒に考えていく所存です。どうか、お子さまの成長を見守りながら、本学の活動に積極的なご意見を賜り、ご協力を賜りたく思っています。

あらためて、お子さまのご入学を心からお祝い申しあげ、本日の蒼山会への、多くの方々のご出席に、心から感謝いたします。

ありがとうございました。

(当日の挨拶をもとに書き加えたものです。)